

Small Talk台本②（第6時・第7時のはじめ5分）

進め方（文科省の型）：帯活動として2時間に1回。6年はペアで伝え合うことを中心に、相手を替えて1～2分×2回。1回目のあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく**本当の気持ち・本当の出来事**を話す。

話題1 先生が こまったら、しつもんで助けて（第6時）

板書：Where is it from? Is it in Asia? → Yes, it is. / No, it isn't.

T Look at this ball. It's a soccer ball. It's from... hmm.

このサッカーボールを見て。サッカーボールです。これは…ええと。

T（こまった顔で だまる）

（3秒だまる。だれかが助けてくれるのを待つ。ここが今日の主役）

S Where is it from? / Is it in Asia?

（日本語で「アジア？」でもOK。聞いてくれた子に Thank you! を返す）

T Let's check the label! ... Pakistan! Pakistan is in Asia. Thank you!

タグをたしかめよう！…パキスタン！パキスタンはアジア。助かったよ！

T Your turn. When your partner stops, help with a question.

次はみんなの番。ペアが止まったら、しつもんで助けよう。（1分×2回・相手を替えて）

つまった子への助け舟：この5分の仕掛けは「先生が答えにつまる」こと。子どもは、じょうずに紹介するより先に〈止まった人にしつもんを出す〉練習がいる。Is it in Asia? は二択だから、助けられた側も1語で返せる。第8時のテストで先生が3秒だまるのは、この時間の続き。

話題2 いちばん遠くから来たもの（第7時）

板書：It's from ～. ～ is in ～. → Wow, so far!

T We found many things. A ball from Pakistan. Bananas from Ecuador.

たくさん見つけたね。パキスタンのボール、エクアドルのバナナ。

T Look at the map. Ecuador is in South America. Wow, so far!

地図を見て。エクアドルは南アメリカ。うわあ、遠い！

T In your group, what is far from Japan? Tell your partner.

みんなの班でいちばん遠いのは？ ペアに伝えよう。（相手を替えて2回）

S Brazil! It's from Brazil. Brazil is in South America.

（国名だけでもOK。地図を指せれば十分）

T Nice! Our lunch travels a long way.

いいね！給食は、長い旅をして来ているんだね。

つまった子への助け舟：「遠い」は地図の上でくらべて決める。キロメートルの数字は出さない——調べ始めると英語の時間が社会科になる。ここで一度声に出しておけば、このあとの活動3（つながりの1枚）で手が止まらない。

中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

1回目のあとに全体で：「ペアが止まったとき、しつもんできた人？」→ 出たことばを黒板に1つだけ書き足す（Is it in Asia? / Where is it from? / One more time, please.）。ふやすのは1つだけ。書き足した文は第8時のテストの日まで消さない——テストで3秒だまられたときに、目を上げれば見える場所にあることが大事。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello! / How are you?
くり返す	Soccer? Me, too!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow! / Really? / Good!
たしかめる	Pardon? / One more time, please.
さらに質問	How about you? / Why?
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・6年のSmall Talkはペアで伝え合うのが中心。先生の話は1分で切り上げ、ペアの時間を確保する
- ・つまるのは先生の側だけ。子どもが止まった場面を「ほら言えない」の材料にしない（だまることが失敗になると、しつもんも出なくなる）
- ・話題2で扱うのは学校で見つけたものと給食まで。家の持ち物を題材にすると、ねだんやブランドの比べ合いに流れる（この単元最大の地雷）

